

## 「今の私の生活があるのは」

足立区立 新田中学校

三年 黒澤 恵

私が小学校四年生の頃、両親は突然離婚した。離婚が決まつたその朝以降、私は自分の父親には一度も会っていない。母が、私を女手一つで育ててくれているのだ。

母は絵を描くのが好きであった。アクリル絵の具を布に塗り、続々と作品を完成させ、様々な展示会に出演していた。会場に飾られた母の美しい作品を、私はどこか誇らしげな気持ちでいつも眺めていた。筆を持ち、絵の具を巧みに使いこなす姿が私の憧れであり、母に対しきわめて尊敬の念を抱いていた一面であったのだ。

しかし、今の母、離婚した後の母は、以前のような筆を握る姿を見せなくなつた。家事に加え、私と母二人を十分養えるほどの収入を得るために、フルタイムでの勤務をしているからだ。今では、とても忙しいらしくほぼ毎日残業をしてている。激務のようで、晩ご飯を食べた後、風呂にも入らず部屋の畳の上で泥のように眠ってしまう。それほど毎日疲労が溜まっているのだろう。

そんな母の姿を見て、私は母が心配になつた。そこで、一人親世帯に対する手当ではないか気になり、少し調べたことがある。調べてみると、自分たちの住んでいる東京には、いくつ

か一人親への支援金制度があることが分かった。母に支援金について尋ねてみたところ、自分の家は二種類の支援金を得ているそうだ。私はそれを聞いたとき、支援金を得ているのに、どうして母はそんなに忙しく働くのだろうと思った。大きな負担になる道をどうして歩んでいるのか。しかし、その疑問の答えは、母の働きぶりを見ていればすぐに分かる。なんて母は強い人間なんだろうと、私は心底思った。

母いわく、自分たちの生活の主軸は母からの収入だが、支援金も少なからず私たちの生活を支えてくれている、とのことだ。中学三年である私が受験のためにちゃんと塾に通えるのも、時々外食を樂しめるのも、好きな洋服を買えるのも、それら全てを安心して樂しめるのも、バツクアップに支援金があるからだ。今の私の安心な生活を送ることができる背景に、支援金の助けがあると思うと、感謝の気持ちでいっぱいになる。支援金は、税金から賄われる。しかし、今その税金は嫌われる対象になっているように感じる。増税をすれば総理はネットで誹謗中傷の袋叩きにされ、トレンドには「増税メガネ」の字が並ぶ。確かに、納税という支出は家計に大きな影響を与える。しかし、その税のおかげで、救われ、幸福になる国民が幾千万もいることを、納税者には忘れないで欲しい。

誰かの払う税金が、埋まっている幸福の種を芽吹かせる幸せの水となる。今の私の生活があるのは、その水のおかげでもあるのだ。私が払う税金も、いつか誰かの幸福へ、還元できていたら、とても嬉しい。